

① 現在のピッチは、日本大会に必要な広さに縦、横それぞれ何センチ足りませんか。ただし、長い方を縦とします。

新年度からラグビーW杯に向けて準備を加速する大分銀行ドーム＝大分市



# ラグビーW杯準備加速

2019年ラグビーワールドカップ（W杯）日本大会の大分開催に向け、県は17年度から開催準備を本格化させる。試合会場となる大分銀行ドーム（大分市）で仮設の人工芝など必要な設備を導入。ビッグイベントに向けた機運の醸成などにも力を入れる方針。17年度一般会計当初予算案に開催地の分担金を含む関連経費（計約7億4千万円）を計上した。



2019 大分へ

県によると、大会組織委員会が示す基準に沿ってドームを整備する。現在のピッチ（天然芝）の広さ（107.5m×71.5m）では必要な

サイズ（130m×80m）に足りない。ピッチ周辺を囲んで面積を広げる仮設の人工芝を用意する。高さ17mのゴールポストも購入。W杯対応だけでなく、日本代表戦などレベルの高い国際試合を誘致できるメリツツ（天然芝）の広さ（107.5m×71.5m）では必要な

② 大会に必要なサイズのピッチの、面積は何平方メートルになりますか。

③ 県は W 杯の準備をするため、2017年度にいろいろなことをします。そのための費用は、全部でいくらかかる予定ですか。記事から探しましょう。

## ドームに仮設人工芝 機運醸成へイベント

県が17年度予算案に計上

を確認し、有効であれば導入を検討する。ドームでは他に観客席537席の増設、トイレ75基の洋式化を進める。今年5月に組み合わせ抽選会があり、秋ごろには試合日程が決まって開催2年前も迎える。機運を高めるため、節目に合わせた歓迎イベントの開催も検討。試合会場への交通輸送の計画作りや大会ボランティアの募集に向けた準備にも着手する。県国際スポーツ誘致・推進室は「いよいよ2年前を迎えるので開催準備を本格的に進める。万全の状態で開催大会を迎えたい」としている。

（加納慶）